



白山市立美川小学校

校長室だより

2020 Premium

令和2年5月号
 白山市立美川小学校

 白山市美川和波町ワ229
 TEL 278-2063

ネットでどこまでやれるか やれないか 校長 今井 直人

ご家庭でのICT環境調査にご協力いただき、ありがとうございました。厳しいご意見もありましたが、自分が学校側の人間じゃなくて、一人の保護者だったら、同じこと思うだろう——どれもそういうご意見でした。

ここにきて、お声をいただいてもすぐにはできないこと——制度ができていないこと、システム上できないこと、自由裁量でできないことなどが、お恥ずかしながらどんどん露わになってきました。

3月の校長室だよりのQ&Aにも書いた通り、国が決める事柄(学習指導要領)、市が決める事柄(学期初めや終わり)、学校で決める事柄(時間割や日課)がある中で、例えばオンライン授業などは、今までなかった話なのです。アンケートにも「オンラインで学習できるように」という声がいくつかあった一方で、ネット環境が整っていないご家庭も少なくありませんでした。現在の環境でオンラインに頼って授業を進めると、不利益や格差が生じることは否めません。

Wi-Fi等のネット接続環境なし	10%
パソコン、タブレット等なし	14%
電子データを印刷できるプリンタなし	29%
(美川小 回答数172)	

そこで、ネット活用を「絵に描いた餅」にしないように、本校では以下の3点を心がけるようにしました。

❖つながりを大切に❖ それこそ実際の授業のような長編の授業動画を配信しても視聴できない家庭があり、学校再開後、その学習を終えたことにはできません。それより軽いもの、シンプルなもの、メッセージ的なものを多く配信するようにしています。

そして「そこにコメントを書き込むのは、ノートに朱書きを入れるのと同じですよ」と先生方にも伝えていきます。大切なのは「つながっている感」です。

*「まだまだ!」というお声が聞こえてきそうです。すみません。



❖安全なSNS体験を❖ つい「安全な」と書きましたが、今日、子ども達には危険な側面ばかりを取り上げて「SNSは危険」と学ばせているようにも見えます。でも、これも今がチャンスです。

少々イージーなネーミングでしたが「みかわっ子テレワーク」はログインして利用する、美川小学校の中(正確には学校の中のみみんなに見える場所)です。「投稿するってこういうことか」「やっぱり、いいねとかコメントの数って気になるわ」を実感し、こんなところで悪口やウソを書いたらどうなるか、どう書いたら気持ちが伝わるか、短く正しく伝えるにはどうするか、などを学べる場所であってほしいと思います。

❖職員もスキルアップ❖ 2番目の項目とセットになる視点ですが、ネットの功罪を授業で教えていながら、実際に動画で授業をしたことのある先生はもちろん、日頃からブログやツイッターで発信している先生も実はいません。

こうなると若手もベテランも一緒です。この休業期間中、動画ミニ授業の準備をしたり、作物のタネや苗を撮影したり、それらをアップしてみたり、そんな様子もずいぶん増えました。 *「いまごろそのレベル!？」と思われるかもしれませんが、そんなものなのです。



アンケートにネット活用についてのご意見も多くありましたので、現状はまだまだ不十分ですが、絞って書いてみました。次回こそは、登校を再開したとして、子どもたちの様子をもとに書きたいなあ、と思っています。

裏面に Q&Aとしてアンケートでいただいたお声のうち、主なものをまとめました

Q & A 校長室からお答えします Vol.1 休業中のアンケートから

Q ひらがなの練習、きれいに書けないのですがどうしたら良いでしょうか？（1年生の保護者より）



A 長引く休業、特に1年生には、楽しみにしていたはずの小学校生活のスタートがこんなことになってしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

ひらがなに限らず、勉強は親に教わるのと先生に教わるのとでは違います。親の教え方がダメというのではなく、友達や先生といっしょに勉強するという喜びやモチベーションが得られないことが問題です。ここは「きれいに」のハードルを下げてでも、無理強いをしないことです。

くれぐれも「ちゃんと書けなったら、学校行ったらはずかしいよ」などと言わないでください。学校で言うところの評価（うまく書けたかどうか）を気にせず、「たくさんおぼえたじー」とか「この字のココ、上手！」ぐらいの感じで、つくってでも笑顔で、親の不安顔を見せないようにしましょう。指導と評価は教師の仕事。学校再開後に担任がしっかりと行います。



Q 出された宿題はしていますが、やる気がなくなっていて、嫌々していることが多くなり、情緒不安定気味。子どもの気持ちが分かるぶん辛いです。（何人もの保護者の方からのお声を合わせました）



A 上のご質問のような場合には、笑顔をつくってでもほめてあげることを書きましたが、実は「寄り添う」ということは、一緒にマイナス面の感情を共感してあげることでもあります。

投げやりにならないように、また生活の切実感などをできるだけ子どもの前で出さないようにして、その上で「きょうは、こんへんでやめとくか」「しょうがないよなー」も共感としてはOKです。

①ほめる（プラスの言葉かけ）、②つらさに共感する、あと一つあるとすれば、③新しいことをやってみる、この3本柱でどうでしょう。もうしばらくで学校再開です。がんばりましょう……。あつ大事なことを言い忘れました。「がんばりましょう」を言わないことです。



Q 足りない授業数の確保はどのように考え、計画しているのか、分かりやすいように詳しく提示して欲しいです。（4年生の保護者より）



A 6月1日再開とすると今年の年間授業日数202日のうち、34日が消えたこととなります。そして市では夏休みや冬休みの短縮で26日分ほどの回復を想定していて、都合8日分ほどの不足（くわしくは未定）。また例年、標準時数以外の活動（行事やクラブ活動など）を年間で約80時間（6年生）実施していますので、数字だけ見れば回復可能です。ただし……

それだと、夏休みもほとんどなく、行事もなんにもない学校生活になってしまいます。そこで教科の授業の見直しも行わなければなりません。①つきたい力やねらいを明確に、②可能なものは削除、省略、次学年送りにし、③行事等はゼロではなく精選し、④学習指導を効率的に、再開後の授業を進めていきます。

なお②は文部科学省の通知によりますし、また3密回避との兼ね合いもあり、正直言って悩ましいところです。

Q メール、ホームページすべてにおいて、遅く、わかりにくい。対応悪い。改善されないようなら郵送希望。宿題や配布物は、学校の玄関でのやりとりでなく、郵送の方が良いと思います。（いずれも4年生の保護者より）



A ご指摘ありがとうございます。メールは市からの重要で詳細な通知があり次第、速やかに配信しています。ホームページは、休業期間中に連絡事項やコンテンツが増大し、ご家庭からの投稿も含めて、構成を見直しながら運用しています。遅く、わかりにくいのご指摘、真摯に受け止め改善に努めます。

また配布物等については、（担任に会えない場合もあります）お子さんが学校に足を運んでいただく機会にもなればとの思いも含め、親子での来校も可といたしました。25,26日の受け渡し（予定）には、郵送のご希望があれば、学校までお知らせください。

Q このアンケートでなにになるのか教えて欲しいです。（4年生の保護者より）



A 学級懇談会も連絡帳での相談もできず、きつとてお困りのはずなのに何うすべもなく、市教委の調査の際に本校のアンケートを追加しました。今号の内容はそこでのお声をもとにしたものです。貴重なご意見をむだにしないよう、今後の学校運営に生かしていきます。

